

令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会

第5ブロック研修会 次第

日時：令和7年11月9日(日) 午後2時～4時45分

会場：調布市文化会館たづくり12階大会議場

都市社連協統一テーマ：「統一テーマ「つながり、関わり合い、ともに創造する地域の未来 ～身近な課題を自分ごととして考えよう～」

第5ブロック研修テーマ：「市民参加演劇で社会教育を考える」

1 主催者挨拶

東京都市町村社会教育委員連絡協議会 会長 笹井 宏益

2 開催市あいさつ

調布市教育委員会教育長 栗原 健

3 演劇「四重奏ーカルテットー」上演（14時05分～15時05分）

4 休憩

※一般観覧の方はご退席願います。

5 第5ブロック研修会幹事市議長挨拶

調布市社会教育委員の会議 議長 篠崎 光正

6 グループ討議及び発表

7 閉会の辞

小金井市社会教育委員の会議 議長 笹井 宏益

【令和7年度 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会】

グループワーク ワークシート

15：25～16：15 グループディスカッション（50分程度）

16：15～16：40 グループ発表・質疑応答（25分程度）

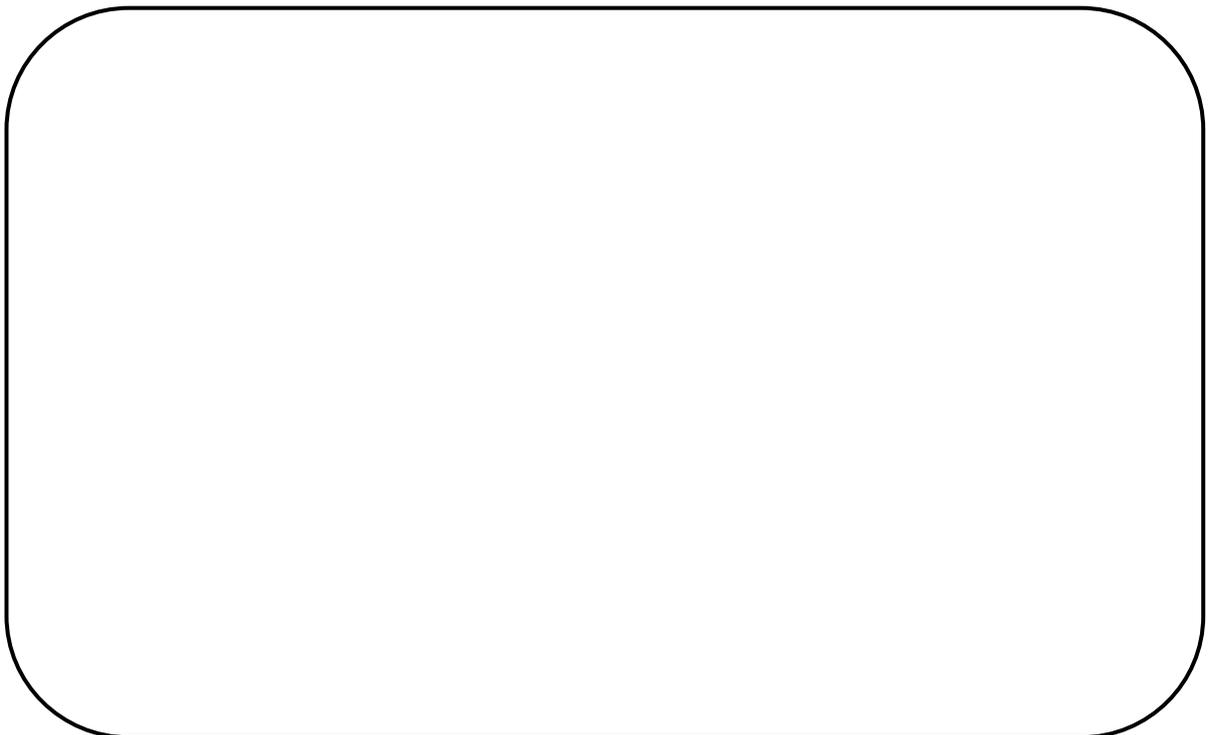
グループワーク テーマ

「社会教育が支えるものとは」

【キーワード】

- ・ 不登校の問題（学校教育）
- ・ 家庭内の問題（家庭教育）
- ・ 子育てをどう支援するか（地域の活用、人材の確保）
- ・ 地域の施設を活用する利点（公民館などの利用）
- ・ 地域の人間力をどう活かすのか（地域の人材にスポットをあてる方策など）
- ・ 社会教育にAIをどう活かすのか（ICT化の方策など）

メモ欄



令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
 交流大会・社会教育委員研修会 実施要項

日 時：令和7年12月13日（土）午後1時30分～（受付 午後1時00分から）

場 所：小金井 宮地楽器ホール 3階大ホール（小金井市本町6-14-45）

主 催：東京都市町村社会教育委員連絡協議会

13:30	交流大会 ■第1部 式典（15分） 開 会 都市社連協副会長 生尾 光 （小平市） あいさつ 都市社連協会長 笹井 宏益 （小金井市） 来賓祝辞 小金井市教育委員会教育長 大熊 雅士 氏
13:45	■第2部 各ブロック研修会実施報告（65分）※質疑応答含む 第1ブロック幹事 瑞穂市 第2ブロック幹事 国分寺市 第3ブロック幹事 町田市 第4ブロック幹事 西東京市 第5ブロック幹事 調布市 ※今年度の統一テーマを受け実施された各ブロック研修会の内容報告
14:50	休憩（10分）
15:00	■第3部 社会教育委員研修会（75分）※質疑応答含む 「関わり合いの中から生まれる地域の未来ー地域社会教育実践の経験を踏まえてー」 内容 ・事例紹介及びパネルディスカッション
16:15	閉会 都市社連協副会長 須崎 奈緒美 （日野市）

令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 交流大会・社会教育委員研修会

<実施概要>

趣旨	<p>地域コミュニティの希薄化が進み、人づくり、つながりづくり、地域づくりは社会教育分野のみならず、他の多くの分野でも求められるようになっていきます。</p> <p>令和7年度の統一テーマは、より多くの人が社会教育活動に参画して自身の学びの成果を地域に生かすとともに社会教育を通じて様々な世代がつながり、地域の課題や未来について皆が自分ごととして捉え、行動できる社会を目指したものです。</p> <p>社会教育委員研修会では、「関わり合いの中から生まれる地域の未来」ー地域社会教育実践の経験を踏まえてーをテーマとして事例紹介を踏まえたパネルディスカッションをします。</p>
テーマ	つながり、関わり合い、ともに創造する地域の未来 ～身近な課題を自分ごととして考えよう～
日時	令和7年12月13日（土）午後1時30分から4時15分まで
会場	小金井市宮地楽器ホール 大ホール
内容	<p>■開会行事 開会 都市社連協副会長 生尾 光 （小平市） 挨拶 都市社連協会長 笹井 宏益 （小金井市） 祝辞 小金井市教育委員会教育長 大熊 雅士 氏</p> <p>■各ブロック研修会実施報告 第1ブロック幹事 瑞穂町 第2ブロック幹事 国分寺市 第3ブロック幹事 町田市 第4ブロック幹事 西東京市 第5ブロック幹事 調布市 質疑応答（質問はお一人様につき一問とさせていただきます）</p> <p>■社会教育委員研修会 テーマ：「関わり合いの中から生まれる地域の未来」 ー地域社会教育実践の経験を踏まえてー 内 容：登壇者による事例紹介及びパネルディスカッション 質疑応答（質問はお一人様につき一問とさせていただきます）</p> <p>■閉会行事 閉会 都市社連協副会長 須崎 奈緒美 （日野市）</p>

<交流大会・各ブロック研修会実施報告>

【第1ブロック（瑞穂町） 報告者：志村 武保 / 笹井 鎮彦】

実施日時	令和7年10月18日（土）12時45分～16時00分		
場所	瑞穂町郷土資料館 「けやき館」		
参加者数	44名	幹事市	瑞穂町
テーマ	地域とのつながり ～身近な取組を考える～		
形式（方法）	講演2件、休憩時間を利用して缶バッジづくり		
<p>【概要】</p> <p>瑞穂町で特色のある取組として実施されている「瑞穂ふるさと大学」と、生涯学習推進団体である「みずほ熟年塾」が町と協働で実施している「みずほ笑ホール寄席」の2事例を紹介しました。</p> <p>また、事前に構成市町から提供いただいた資料を使用し、ブロック研修会をモチーフとした缶バッジを作成してお渡しするとともに、参加者にも休憩時間を利用し、缶バッジづくりを体験していただきました。</p>			

【第2ブロック（国分寺市） 報告者：栗木 美代子 / 高島 恵生】

実施日時	令和7年11月29日（土）13時30分～16時00分		
場所	国分寺市ひかりプラザ		
参加者数	27名	幹事市	国分寺市
テーマ	『人と人がつながり学びが循環するまち ～「広がる」・「超える」・「届く」～』		
形式（方法）	対面		
<p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 学校紹介（映像） 3 挨拶 4 本研修の趣旨説明 5 事例発表 6 グループ討議・発表 7 まとめ 8 次期幹事市からの御挨拶 9 閉会 			

【第3ブロック（町田市） 報告者：近藤 裕之】

実施日時	令和7年11月14日（金）13時30分～16時00分		
場所	町田市民文学館 大会議室		
参加者数	32名	幹事市	町田市
テーマ	つながり、関わり、共創する地域の新しい風 —現代課題への対応と未来志向のために—		
形式（方法）	講演・展覧会観覧		
<p>【概要】</p> <p>○開会 開会挨拶 町田市生涯学習審議会 会長 吉田 和夫 主催者挨拶 東京都市町村社会教育委員連絡協議会 副会長 須崎 奈緒美 氏 開催市挨拶 町田市教育委員会 生涯学習部長 中村 考志</p> <p>○第1部：講演 タイトル：アンガーマネジメント入門～イライラと上手く付き合うために～ 講 師：玉川大学教師教育リサーチセンター教職サポートルーム客員教授 仙北屋 正樹 氏</p> <p>○第2部：展覧会観覧・講演 展覧会「サニーデイ・サービス 曾我部恵一展」 解説：町田市民文学館 学芸員 山端 穂</p> <p>講演「町田市民文学館の取組について」 講師：町田市民文学館長 羽生 謙五</p> <p>○閉会 次期開催市挨拶 閉会挨拶 稲城市社会教育委員の会議 渡邊 真砂子 氏</p>			

【第4ブロック（西東京市） 報告者：小野 修平 / 石島 航】

実施日時	令和7年10月31日（金）14時00分～16時15分		
場所	西東京市役所田無庁舎 202・203会議室		
参加者数	30名	幹事市	西東京市
テーマ	地域文化をきっかけとした地域のつながりづくり ～各地域における取組からノウハウを考える～		
形式（方法）	講演／グループディスカッション		
【概要】			
■第1部 基調講演(60分)			
講 師 亀田 直美(西東京教育委員会市地域学習推進課・学芸員)			
滝島 俊「したのやムラ ムラびと」			
タイトル 下野谷遺跡で結ぶ人と人とのつながりづくり			
質疑応答			
■2部 グループディスカッション(60分)			
各グループでディスカッションおよび発表			

【第5ブロック（調布市） 報告者：篠崎 光正 / 田村 昇】

実施日時	令和7年11月9日（日）14時00分～16時45分		
場所	調布市文化会館たづくり12階大会議場		
参加者数	37名	幹事市	調布市
テーマ	市民参加演劇で社会教育を考える。		
形式（方法）	演劇及びグループワーク		
【概要】			
1 開会			
(1) 主催者挨拶			
東京都市町村社会教育委員連絡協議会 会長 笹井 宏益			
(2) 開催市挨拶			
調布市教育委員会教育長 栗原 健			
2 演劇「四重奏ーカルテットー」上演			
3 第5ブロック研修会幹事市議長挨拶			
調布市社会教育委員の会議 議長 篠崎 光正			
4 グループ討議及び発表			
5 閉会の挨拶			
次期第5ブロック幹事市 小金井市社会教育委員の会議 議長 笹井 宏益			

<社会教育委員研修会>

○登壇者紹介

【司 会】小金井市社会教育委員 会長 笹井 宏益

【コメンテーター】前小金井市社会教育委員 伊藤 安寿華

【パネリスト】NPO 法人こがねい子ども遊パーク 邦永 洋子

小金井第三小学校おやじの会／社会教育士 小林 浩

NPO 法人アートフル・アクション／フォトグラファー 廣川 慶明

○基調講演 小金井市社会教育委員 会長 笹井 宏益

「関わり合いの中から生まれる地域の未来」

ー地域社会教育実践の経験を踏まえてー

○事例発表

・社会教育としての遊パーク事業その始まりと今

・小金井第三小おやじの会紹介

・ゆるやかなつながりのタネまき

○パネリストによるパネルディスカッション

○質疑応答（質問はお一人様につき一問とさせていただきます）

◆小金井におけるプレーパーク事業のあゆみ

NPO 法人こがねい子ども遊パーク

- ・**2002年**：小金井市公民館講座「子育ては未来育て」終了後、12月に自主グループ「**小金井にプレイパークを作る会**」が設立された
- ・**2003年**：「こどものまち ミニサクラ」との出会い
 - ・公民館講座「**子どもの時間を取り戻そう**」の企画・運営に参加。
 - ・同11月、講座の最終日に、**1日プレイパークを公民館と共催実施**(浴恩館公園)700名参加。
 - ・わんぱく夏祭りに参加。プレパ小屋を作る。
 - ・小金井市児童館事業の 移動児童館わんぱく号 ボランティアに参加
- ・**2004年**：1月・1日プレイパーク(浴恩館)、3月・春休み連続プレイパーク(同)、7月～**毎月1回のプレイパークを開催**(都立武蔵野公園)
 - ・8月21日～29日、わんぱく夏祭りに共催参加：本祭り中に雑木林で連続プレーパーク開催。
- ・**2005年**：くじら山プレイパーク、**土日と平日、月2回のプレイパーク開催**
 - ・**放課後プレイパーク**・10月より地域子ども教室全国協議会より助成をうけ、**東京学芸大学環境教育実践施設(農場)で 毎週水曜 実施**
- ・**2006年**：いけとおがわプレーパーク(10月～毎週水曜) 東京学芸大学 農場から里山ゾーンへ
- ・**2007年**：くじら山プレイパーク…毎週金曜が放課後開催、第4土曜が1日開催(月5回)
いけとおがわプレイパーク…毎週水曜の放課後開催…東京学芸大学内
10月～12月小金井市子ども家庭支援センター父親講座担当
- ・**2008年**：学芸大学月4回、くじら山月5回の実施 プレイリーダー1人の継続雇用
伝統文化子ども教室20回(移動里山体験教室含)
移動児童館わんぱく号ボランティア、年2回の共催事業の実施
同年7月 梶野防災公園作りのワークショップに参加(遊び場の会を立ち上げ)
- ・**2009年**：梶野公園でのプレーパークイベントの開始(2か月に一回)
 - ・7月「特定非営利活動法人こがねい子ども遊パーク」認証され、設立
 - ・市議会一般質問で要望「行政の責任で常設のプレーパークを作ろう！」
- ・**2010年**：
 1. プレーパーク事業(放課後子ども教室)
 - くじら山プレーパーク毎週金曜日 2時～5時・第4土曜日 10時～5時
 - いけとおがわプレーパーク毎週水曜日 2時～5時
 2. 親子ひろば事業

森の親子ひろば りんご 毎週月曜日 10 時~2 時

3. 子育て子育て講座の企画運営・コーディネート（小金井市子ども家庭支援センター主催など）

遊福講座、 父親講座

4. 自然文化体験事業

文化庁・伝統文化子ども教室助成事業：ヒカル泥団子ワークショップ、 泥染ワークショップ、雪国暮らし体験
独立行政法人福祉医療機構助成事業：パパとたがやす畑の時間

その他 自主事業：梶野公園オープニングイベント のサポーター

・2011 年：

・梶野公園ちびっこプレーパーク バンビ の開催 毎週火曜日 10 時から 2 時

・11 月：子どものまち ミニこがねい実施 日本たばこ産業青少年健全育成助成

・2012 年：常設のプレーパークを市内につくっていただくことを求める陳情 採択

・9 月：「プレーパークの常設を希望する会」が署名と陳情を提出。本会議で 11 月 29 日採択

・2014 年：東京学芸大学内での常設に向けていけとおがわプレーパークを週 1 回から週 3 回実施

・2015 年：いけとおがわプレーパーク（火～木・土）くじら山プレーパーク（金）の 2 つのプレーパークが小金井市冒険遊び場等健全育成事業となる（6 月 11 日 受託）

・2016 年：野外保育りんごっこ開始（4 月～）

・梶野公園ちびっこプレーパーク バンビはちびっこプレーパーク つくしとして、梶野公園サポーター会議遊び場の会により引き継がれた

・2021 年：みんなのおうち りんごっこハウスをオープン（野外保育の拠点）

・野外保育事業以外に、カフェ「焼きりんご」、子ども食堂「pomme」、僕らの KAKUREGA、暮らし体験事業など実施